



草刈機 斜面を駆ける

中山間地の草刈りをスマートに

やまがたの棚田20選にも認定されている白鷹町^{なかやま}中山地区は美しい里山風景が広がる中山間地域である。地区内には、勾配1/20の急傾斜農用地を抱え、その維持管理に多大な労力を要している。

地区内の90haで構成する「中山集落協定」^{なかやま}では、担い手の高齢化や労働力不足が深刻化している中、急勾配で長い法面の草刈りの省力化を図るため、中山間地域直接支払交付金（農林水産省）を活用し、スマート農業による無線操縦の自走式草刈機の導入を決めた。

新技術の導入により農作業の省力・軽労化を図り、耕作の維持や美しい景観の保全に取組んでいく。

スマート農業って、何だっけが

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を利用して、省力化・精密化や高品質生産の実現等を推進する新たな農業を指す。

スマート農業を活用することで、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待できる。

（農林水産省HPより）

急傾斜による営農負担を軽減したい

これまで中山地区では、ハンドガイド式草刈機6台と、トラクターに接続するアタッチメント式草刈機1台を共用してきたが、90 ha という広範囲での共同利用が追いつかず、各自の肩掛け式・背負い式等の刈払機に頼らざるを得ない状況であり、さらなる労力軽減が必要であった。そこで、スマート農業を推進する農林水産省の事業を活用する機会を捉え、棚田の長い法面に有用な自走式草刈機の導入を決めた。



従来の草刈状況（写真の圃場は3人がかり）



急傾斜の畦畔で試運転！

ラジコン草刈機がやってきた！

今回導入する草刈機は、最大45度の作業角度で遠隔操作が可能な自走式タイプである。トラックへの積み下ろしや、圃場間の移動にかかる疲労が軽減できる。協定に加盟する農家が共同で管理し、畦畔の傾斜がより急な圃場から優先して使用していく。

5月に地元での実演会を開催し、操縦技術の習得や、メンテナンス方法等について理解を深めた。

地域の声

中山集落協定の沼澤会長は、急勾配の農地の管理には苦労してきたが、今回の自走式草刈機導入には地域の関心もひときわ高い。傾斜のきつい条件で大変なのは他の地区でも一緒だと思ふ。今回のような機会を十分活用するために、地域としてもできることを努力していきたい。」と話す。

令和の時代を迎えたこの機に、新たな技術に注目していきたい。



中山集落協定 沼澤会長

スマート農業推進型の事業については、県庁または各総合支庁の農村計画課へお問い合わせください